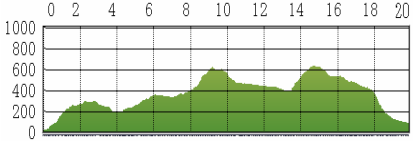


健康登山04: 周辺の山02(天王山 ~ 小塩山)

コース	山崎駅 1.6km/54 釈迦岳 1.6km/34 1.3km/45	天王山 2.5km/57 杉谷 1.1km/17 小塩山 3.3km/58	浄土谷 2.9km/58 金蔵寺分岐 1.6km/24 山道取付 1.8/27	大沢 2.2km/73 大原野森林公園 南春日町 東向日駅
水平距離	19.9km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	22.5km			
累計高低差	登り1262m、下り1190m			
標準歩行時間	7:31			
実績歩行時間	7:25			



山行報告

山行日 2005・09・01(木) 天候 曇のち晴 参加者 7名

山崎駅8:40 天王山9:34 小倉神社分岐10:04 浄土谷10:36 ゴルフ場駐車場11:38 大沢11:51 昼食12:00~35 大杉12:59 釈迦岳13:30 杉谷14:26 森林公園案内所14:56 鉄塔15:45 小塩山16:07 南春日町17:35 東向日駅17:55

記録

この季節としては水平距離20km、水平換算距離22.5kmと長丁場で実行した。途中杉谷から小塩へ下山するルートもあったが7名全員が無事ゴールまで歩いた。前日まで近畿圏にあった前線が遠退き気温は33 を超える予想、むし暑くどうしても歩行速度は遅くなる。天王山へはまずまずのペースだが汗はふき出してくる。展望はモヤで遠くは見えない。天王山から小倉神社分岐あたり、蚊が多く休息もあまり取れず悩まされる。柳谷観音には立ち寄らず、浄土谷 乗願寺方面にコースをとる。乗願寺で金色の立派な西山大仏を拝観し、大沢分岐へ向かう。ベニーカントリークラブ前までは高低差150mのガラガラした舗装道路の登りである。今回、もっとも疲れたところで、坂の上のクラブ駐車場では休息を15分もとった。釈迦岳での昼食を考え、行動食で空腹感をまぎらわし出立する。大沢から沢道に入り気温は一気に25 に下がっている。涼しくて、谷水もあり、地面は湿気があるがここで昼食をとる。疲れも回復し釈迦岳に向う。等高線に沿ってゆるやかな登り、約45分で頂上に立つ。日射しがあり昼食を沢道でとったのは正解だった。これより地元熟知のHKさんの案内で大原野森林公園経由、小塩山西側裏道から頂上に行くコースをとる。杉谷では前回自販機が使えずガックリしたが、今回は使えた。全員のどを潤す。時間を考え森林公園内は通らず、外周舗装道路を歩き、公園案内所前から関電鉄塔点検道をHKさんが案内、小塩山西尾根から天皇陵まで一気に出ることができた。関電鉄塔から見るポンポン山の景色も素晴らしく、機会があれば森林公園経由でもう一度トライしたいものである。西山は天王山、釈迦岳、ポンポン山、森林公園経由小塩山で4山を歩くのがベストだと思う。予定より1時間遅れ、KIさんがバス停まで走って17時35分発のバスを待たせてくれた。全員駆け込み乗車、無事東向日駅に着く。

周辺の山 (天王山~釈迦岳~小塩山)



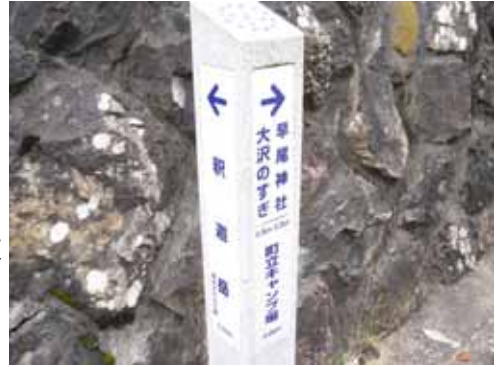
天王山へ向う
09:00



天王山頂上
09:33



乗願寺
10:36



大沢分岐
11:51



釈迦岳山頂
13:24



杉谷集落
14:20



大原野
森林公園入口
14:56



鉄塔から
ポンポン山
15:35



淳和天皇陵
16:06



林道から
16:57

名所・旧跡ミニガイド（周辺コース：天王山～釈迦岳～小塩山）

さかとけ
酒解神社：正式名はたまたよりまつりきたる自玉手祭采酒解神社。大山祇の神ほか 10 神、橘氏の氏神。
神輿庫は焼失を免れた唯一の遺構で鎌倉期の重文。

十七烈士の墓：蛤御門の変で長州方に同行した、久留米の神官 真木和泉守以下十七士は市街戦で敗退、討伐軍に包囲されてここで自刃した。

山崎城跡：天王山の山頂一帯、三角点を中心に礎石が現存、空堀や土塁が巡らされていた。南北朝時代、北朝の林直弘が入っている。応仁の乱では東軍の山名定豊、山崎の合戦では明智光秀や羽柴秀吉が一時利用している。

ほうしゃくじ
宝積寺（宝寺）：竜神が伝えたという打出の小槌があるところから宝寺とも呼ばれている山崎合戦のとき一時秀吉の陣所となった。

天王山（かつては山崎山）：山崎天王社が祀られて天王山と呼ばれるようになった。酒解神社は中世には天神八王子社が祀られ山崎天王社と称した。明治になって現社名となった。

釈迦岳：昔、山頂にお釈迦様が置かれていた。時の住職にお告げがあって降ろした。1.3mの石の坐像で運ぶのが大変、仏様も汗をかいて降りたという。この霊汗が由来となり『善峰寺の薬湯』が始められた。風呂は毎月第二日曜日（有料）。明治の初め頃は混浴であった。

小塩山（大原山）：東西の二峰からなる。

淳和天皇火葬塚：桓武天皇の第3皇子、その死に際して人を煩わさないように葬儀は簡素にすること。山陵は嘗まずに骨は砕いて山中に撒くことを遺言した。このため遺体はこの地で火葬に付され、骨は大原野西山（西峰）に撒かれた。しかし江戸時代末期に幕府によって御陵にされた。

金蔵寺：平安京（長岡京）に遷都したとき、北の愛宕、東の比叡とならんで王城鎮護のため都の四方に経典を納経し、西の岩倉にしたと伝えられる。
現在の建物は五代將軍綱吉の生母*桂昌院によって再建されたもの。

* 桂昌院：西陣の織り屋の娘 お玉、京都八百屋の娘 お玉ほか諸説。幕府の公式記録は二条家関白の家臣本田宗正の娘とあるがべールの中。『玉の輿』の語源となった人。（美人、家光に見初められる。）